

「でんきと私」

山口県立 萩商工 高等学校

電気コース2年 廣田蒼大

私は、中学生の頃に技術という教科を通して、物づくりの面白さを知った。それから高校を決める際に、物づくり等のもっと専門的な技術・技能を身に付けたいと思い、今の高校の電気コースを選んで入学した。新しい生活への緊張がなくなる入學式の翌日から第2種電気工事士の朝補習が始まり、電気の奥深さや難しさを知った。電気は私たちが生活する中で欠かせないものであり、この変化していく社会でも無くならないものだと教えられ感じた。機械では出来ない仕事、その仕事に必要な資格に私は惹かれて取得したいと強く思い勉強した。技能試験では私がしたかった物づくりである電気の配線工事を時間内に完成させるものであった。実際にやってみると複線図（回路図）が書けなかったり、結線が間違えてたりして全然うまく出来なかった。練習を積み重ねてミスを1つずつ減らしていくことで時間内に仕上げる事ができるようになった。試験当日は、練習とは違う緊張感で、思うように手が動かず、結果は不合格だった。翌年、去年の出来なかったポイントを再度見直して作業効率を上げ、結線確認をする時間を確保できるようになった。試験当日も2度目なので緊張もせず、自分の力を出し切ることができ合格できた。

その年の秋、電気科の先生にもものづくり電気工事コンテストに参加しないかと先生に言われ、友人と技術・技能向上のために挑戦した。課題図を見せてもらい最初は簡単だと思っていた。作業時間は90分であるが、すぐにできるだろうと甘く見ていたら、最初は5時間くらいかかり練習しても時間は一向に短縮されず、参加したことを後悔した。だが、何の為に今の高校に入学したかを思いだし自分のモチベーションを上げ、時間短縮の方法を考え練習を重ねた。コンテスト1週間前頃にはどうにか時間内に完成できるようになったが、仕上がり具合は良くなかった。コンテスト当日、私は緊張したが自分が持っている力を最大限出すことができ時間内に完成させることが

できた。審査では、仕上がり具合が悪く減点が多く結果は最下位だった。結果は悪かったが、コンテストへ向けての繰り返し繰り返しの練習、技術の習得等で達成感で一杯だった。

今回のコンテストでは電気を通して色々と学ぶ事ができた。今後も電気を通して学び自分が成長出来るように取り組んでいきたい。